

臨時増刊号

みなさまへ元気を!!

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

「特集」コロナ禍にうち勝とう!!

コロナショックに思う

三つの信じること

中川千都子

世界中を大混乱に陥らせた新型コロナウイルス感染症の拡大は留まるところを知らず、その被害は日常生活をも怯えさせる事態となった。国からは緊急事態宣言がなされ、当たり前だった自由と安心が脅かされた。

有事においてはものごとの本質が浮き彫りにされるものである。この状況に戸惑わない人はなかるうが、果たして何を信じ生きていけばよいのか。森信三先生は、常々信じていること三つを挙げておられる。

『不片言』より

まず第一に「宇宙の大法」、すなわち宇宙の真理そのものである。良きにつけ悪しきにつけ、全ては宇宙という生命体の動的バランスである、と。そうであるならば、このコロナショックも「陰極まって陽に転ずる」循環の過程の必然といえまいか。ここをいかに乗り越えるかにより、さらに明るい明日があると信じていたい。

第二に信じることとして「民族」と言われた。日本民族に対する信頼である。今回のコロナ自粛も、「セルフロックダウン」ともいえる規制によらぬ個々の心がけが日本における感染拡大を最小に留めたように思う。

そして第三に挙げられたのは「心の波長の合う人」を信じると。人間学塾・中之島でのご縁は人生を豊かにする宝だとしみじみ思う。いったい街で出会う人の何人に「宇宙の大法」の話ができるだろう?

緊急事態は解除の方向ではあるが、まだまだ予断は許されない。しかし今後ともいたずらに怖れ不安になるのではなく、「宇宙の大法」を信じ未来

を見据えること、「民族」の誇りを持ち行動すること、「心の波長の合う人」と繋がりあい、生を喜ぶことを実践していきたい。この未曾有の難儀からの新たな明るい一步を確信して。

塾生のみなさま

西村俊幸

ご無沙汰しております。

全国的な新型コロナウイルス感染拡大を受け、緊急事態宣言が発令されました。全国的な緊急事態宣言は解除されましたが、この間の感染拡大を受け、経済に甚大な影響が出てきています。

感染により、多くの方が命を落とされました。改めてお悔やみ申し上げるとともに、感染された方にもお見舞い申し上げます。

また、医療の最前線でのウイルスと戦われている医療従事者の方々に厚くお礼申し上げます。今、未曾有の国難といっても過言ではないと思います。

このような中、人間学塾・中之島は、本年の3月以来、開講できず、結局、第八期については、後半部分が中止されることになりました。感染拡大のため、仕方ないことですが、残念でなりません。新型コロナウイルスは完全に終息したわけではありません。今後は、新しい生活様式が求められています。まさしく、時代の大転換期を迎えたとも思います。

このような時こそ、今まで皆様と一緒に学んできたことを生かしていきたいと思えます。皆様とともに笑顔でお会いできる日を楽しみにしております。

最後となりましたが、寺田一清先生がよく言われていた言葉をお贈りします。

「肯定 肯定 絶対 肯定」

《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

「奥達先生の『聖言』」

一幅のお軸

謙を始めとす 又謙を終わりとす

真然の音は 万世を貫く

これは新井奥達先生の『聖言』にあるお言葉です。森信三先生より、明治・大正期の隠者なる清冽な人物を教えられ、『奥達広録』なる五巻もの語録集の存在を教えられました。それは昭和四三年頃で、京都の古本屋街を渉歴し、やっと購得た悦びは格別のものでございました。

かつて森信三先生が、広島高師在学中に、かの名訳といわれた山川丙三郎氏のダンテの『神曲』の訳本の序文代わりに記載せられた奥達先生の語録に心打たれたのであります。

それは「日本には一人の隠者がおられる。そしてその名を新井奥達という」という無限の感慨だったのです。その後、奥達先生探索せられること七年後その当時京都大学の学生であられたわけですが、お知り合いの福田武雄氏の書棚に『奥達広録』五巻を発見せられ、狂喜せられたのです。

それ以後、森信三先生にとって「幻」の師として、影の形に添われるごとき存在になられたのです。話は元に戻りますが、凡愚の身にみにとつて、その後『奥達語録』なる書は、猫に小判でまったく歯が立たず、理解に苦しむ言葉の連続でしたが、和綴じ帳に、いちいち筆写いたしましたところわずかに微光がさし染め、5巻の中より抜粋して『聖言』編集発行に至つたしだいです。何とも幽邃なる語録を参考に供したく思います。

○生命の機は一息にあり。

○謙は霊界の大盤根なり。

○後世畏るべし、先生亦畏るべし。

一宮ますみ読書会寄稿 抄録

「本当に大切なものは目に見えない」

鍵山秀三郎先生



■ 老人五省

残念ながら今日本は、再生しなければいけないような国になってしまいました。日本人の資質の低下は著しいものであり、このままいけば日本は世界から冷たい目で見られる国になってしまふであろうと懸念しております。いっぺんに世の中を変えていくことはできないが、必ず少しずつ小さなことから遠くの方から弱いところから変えていけば、その力が集まれば大きな変化になっていくと確信しております。

戦争中に海軍兵学校には、五省というものがありました。

五省とは、至誠に悖(もと)るなかりしか

言行に恥ずるなかりしか

氣力に缺(か)くるなかりしか

努力に憾(うら)みなかりしか

不精に亘るなかりしか

この五つを毎日唱和し、これに抵触する一日ではなかったか、と確認したのです。

戦後この五省の内容が素晴らしいということで、アメリカの海軍であるアナポリスの兵学校に取り入れられ、英訳されて掲げられており、今でも皆が唱和しているとのこと。日本人の考えはすごい、国境を越えて敵味方を越えてこうして広まっていくのだな、ということをつくづく感じました。

この五省をある医師が「老人五省」と作り直したものがあります。

① 姿勢に曲がりなかりしか

② 言語にもつれなかりしか

③ 栄養に欠くるなかりしか

④ 歩行に憾みなかりしか

⑤ 頑固に互(わた)るなかりしか

特に①の姿勢、そして③の栄養の偏りはないかは大切です。私は二十数年前からほとんど菜食ですが、

このように元気になっております。④は歩くことを面倒がったり嫌っていないか。このことは、私は努めて気をつけております。毎朝五時一五分、まだ暗い中公園に行き、掃除をします。明るくなってくると草刈りをしたり、自動販売機の横の缶回収の箱をひっくり返して掃除をします。それは、あの中に捨ててはいけないものゝ犬の糞、オムツ、家庭ごみ、弁当がら等々が捨ててあるからです。なぜそういうことをするのかと尋ねられるのですが、缶回収に来た人が中をあけたとき、それらの関係ないゴミがあればムツとするでしょう。私がそれらを片づけければ、回収に来た人が「だれがやってくれたか判らないが、今日はきれいだな」と思い、その人もまた、誰かに良いことをするようになるのです。世の中に一人でもムツとしたり、腹を立てたり、悪い感情を抱く人が起きないようにしたい、これが私の願いです。

■ 父親からの教え

八〇年以上生きてきて、たくさんの人を見てきました。ちよつとしたきつかけで感情を抑えることができず、次々悪い連鎖をしていく人がいっぱいいます。それならば、その元を断っていく。これは私の父からの教えです。私の父は人がビクビクするようなことは絶対しない。昭和二十年疎開をしていた頃、家の中ではなく表にトイレがありました。寒いときでも表に行くのですが、誰かが行くといつ目覚めて自分も行きたくなる。その時父は「戻ってきてから行け」。暗いところで人に出くわすとビクビクするからです。たとえ身内であってもビクビクするようないことはよくない。子育てについても同様です。子どもを抱き上げるときも寝かせるときも、子どもを驚かさないうちに、スツと抱き上げたりスツと寝かせたりせず、私の父は自分の体を子どもにくつつけるようにして静かに行うのです。驚くようなことをしていると気が荒くなる、優しい心で育てるにはビクビクさせてはいけない、というのが父の考え方でした。私もそうして育てられ、私のきょうだいも五人とも争いごとが嫌いであるのも父のお蔭だとつくづく思います。その視点からいえば、今は残念ながら気が荒くなるような子育てをしている親がいっぱいいいます。

■ 公と私の壁を作らない

日本にはお互い様という言葉があり、そういうことが日本の文化・民族性であるわけです。日本のすべてが良いとはいわないが、良かったことは見直していくこと、それが日の本の再生につながると思います。日本の文化、伝統、そして、ぜひ神話に関心を持っていたきたい。神話は、戦後ことごとく葬り去れました。神話は歴史的な事実ではないが、日本の国がどんな国であり、どんな民族かがわかるために有効なものです。大和民族には穏やかな民族です。ひとりひとりが穏やかで、カッとしたりムツとしたりすることが世の中に起きないようにしていかなければいけない。

そんな大きな目標に向かって私たちは何ができるのか？ いっぺんに大阪を変えることはできません。しかし、自分の住む地域の一箇所から街をきれいにする、学校をきれいにする。そうしてひとつずつやっていくことによって、必ず目標達成は可能であると思うのです。いつからか、それは私の仕事ではない、と「公」と「私」を分けてしまうようになりました。自分の家を一步出て落ち葉があれば、それを片づけるのは行政の仕事だと「壁」を作る。壁を作った途端、「私」の部分が肥大化し、公共心・公德心が失われます。自分たちでできることを行う、たとえば目の前の植栽のゴミをとることは大それたことではありません。

(抄録 中川千都子)

《新刊案内》



『大きな努力で
小さな成果』

小さな成果

鍵山秀三郎著

出版 育鵬社

発売 扶桑社

2020年3月初版

頒価 1600円(税別)

ISBN-13: 978-4594080488